

平成 30 年度 出前懇談会 会議録				
地区	朝日 地区		市長・副市長の出席	市長・副市長
日時	平成 30 年 8 月 31 日 (金) 19:30～21:14		場所	朝日公民館
地区参加者	重石山田町自治会長、池田小迫町自治会長 池田朝日町自治会長、柴尾二串町自治会長 松岡君迫町自治会長、山中朝日ヶ丘自治会長			計 30 名
担当グループ	リーダー	江崎 農林振興部長	副リーダー	桑野 情報統計課長
	プレゼンテーター	諫山 大山振興局長 松原 環境衛生センター長	連絡調整担当	梶原 健康保険課長
	書記	大関 建築住宅課長		
	構成員	河津 体育保険課長、諫山 高瀬こども園長		
	その他			
	議題	テ ー マ		説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～		諫山 大山振興局長	
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、		松原 環境衛生センター長	

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(市長)

- ・日田市の防災メールを登録している方はいるか。

(地区) (10 人挙手)

(市長)

- ・皆さんはどのような方法で情報を得ているか。

(意見)

- ・昨年の災害後に山田町ではアンケートを独自に実施した。そのアンケート結果では、「防災無線が聞こえない。」「一人暮らしの方が困っている。」という意見があった。
- ・君迫町では、告知端末からの放送は聞こえた。

- ・朝日小学校の体育館が避難所になっているが、避難所に行くまでが危険である。避難するときには、道路が川のようになっているところが多い。

(回答)

- ・指定避難所に行くことが困難な場合は家にとどまり、危険な状況が収まった後に、指定避難所へ来てもらえれば、市が支援できる状況になる。

(市長)

- ・災害時に情報が届かなかったことを受け、各戸に防災無線ラジオを配ることを考えている。電池さえあれば情報は入り、耳の不自由な方には文字放送ができる機種もある。莫大な費用がかかるので皆さんに利用してもらわなければ設置は難しいが、設備があれば利用してもらえるか。

(意見)

- ・防災無線ラジオを配布できるのであれば、個人負担をしてもいいので検討してもらいたい。

(市長)

- ・地区内でも、町内によって災害の状況が異なる。防災無線ラジオで地区を細分化し、細かな情報の出し方ができると良いと思う。防災無線ラジオを全戸に配布した場合、7億円かかるので皆さんの意見を聞いて判断したい。実施するのであれば新年度になる。

(質問)

- ・自主避難に対する自治会長の責任はどうなるのか。

(回答)

- ・自治会長の責任はないと思う。基本的には「自己責任」であることは全国共通の認識である。最終的な避難行動は、「自己責任」になることを認識してもらいたい。

(意見)

- ・行政からの情報は朝日地区として発信されるが、各町内で状況が異なる。自主防災組織が自分の地域の情報を得る共有ツールがあったほうが良い。自主防災組織が地域としての危険性を感知し、早く行動することが必要である。市からの情報以前に、自主避難するための情報伝達ツールに対し行政の補助をもらい、各々が判断することが現実的である。

(回答)

- ・地域にあった防災体制づくりを各地区にお願いしている。上宮町では自治会長が独自の判断で避難情報を出した例がある。地域独自の防災マップについて、防災士が地区の意見をまとめてもらいたい。それに対し市は支援する。

(要望)

- ・朝日小学校の体育館が避難所になっているが、入口が水に浸かって避難できない。これまで何度も市の職員に見てもらっているが改善しない。いつ改善してくれるのか回答をもらいたい。
- ・朝日ヶ丘（自治会）では、災害時に球場の駐車場や三隈高校を開放できるよう何年も前から市の防災担当に言っているが回答がない。市は大変だと思うが一つずつ解決するよう、強く言っておきたい。

(回答)

- ・担当課から返事させる。

(意見)

- ・防災無線よりも先に、(避難できないような)避難場所をどうかしてもらいたい。

(意見)

- ・西日本豪雨では、真備町はハザードマップを作っていたが住民は避難しなかった。被害はハザードマップどおりになった。「住民の認識・意識改革」が重要である。小野・大鶴の例で説明するのではなく、朝日地区のハザードマップなど身近な例で説明してもらいたい。

(要望)

- ・山田町の防災工事はいつしてもらえるのか。山田町に2箇所橋があるが、中央の橋脚を撤去するよう要望している。去年は、その橋に流木が引っ掛かり、周囲が冠水した。橋脚撤去について回答してもらいたい。

(要望)

- ・市から被災した農地の圃場整備の話があったが、圃場整備より防災工事が先ではないかと思う。自治会長を通じ、砂防ダム2箇所を造るよう要望している。去年の災害の流木が半分くらい残っている。同じような雨が降れば、また災害に合う。優先順位を決めて一つずつ解決してもらいたい。

(意見)

- ・市長からは、「砂防ダムは費用がかかり、数も多いことから直ぐにはできない。」との回答はもらっている。原因は上流にあり、倒木も残っている。

(意見)

- ・小迫は、圃場整備をしたから水害にあわなかった。田んぼがダムのな役割をしてくれたと思う。圃場整備をして水害に対し、強くすることも考えるべきと思う。

(回答)

- ・圃場整備は、災害に合わせて実施した方が有利になる。倒木については、何とかしなければいけない。

(意見)

- ・(災害の) 原因は別にあるので、山田町は圃場整備をやってもだめ。河川改修で川をまっすぐするのなら全面協力する。原因は倒木のある市管轄の河川が問題である。

(意見)

- ・防災情報は、ラジオで得るのが良い。

(意見)

- ・自主防災組織は災害前なら機能する。が、災害後は機能しなくなる。地域のコミュニティづくりが大切である。自治会長以外で動けるものが動く組織づくりが大切である。地域住民が結びつく風土を作れたらよい。
- ・避難所の運営は初期の場合は自治体職員が良いが、市の職員は本来の仕事で対応すべきで、地域が自主的に避難所を運営すべきである。
- ・社協のボランティアセンターの運営が問題で、社協の職員に知識がなく研修が必要である。マニュアルを見直して機能するようにしてもらいたい。

(回答)

- ・社協のボランティアについての研修、マニュアルの見直しは必要と思う。

(意見)

- ・ 自主防災組織図は、町内の大小があっても同じになっている。町内の規模に合わせた組織図が必要である。

(回答)

- ・ 災害が発生する時間帯等によって状況が異なる。まず各自が逃げる場所を決めてもらいたい。防災士や消防団員は情報収集を行い、地域の防災力を上げる取り組みをしてもらいたい。

(要望)

- ・ 地域の問題点は自治会長の意見を聞いて、早急に回答してもらいたい。

(回答)

- ・ はい。

(要望)

昨年の水害後のアンケートの中で簡単に対応できるものを述べたい。

- ①放送が聞き取れない。
- ②家庭のブレーカーが落ちた時の対処法を訓練時に教えてもらいたい。
- ③罹災証明の提出先が多いので、窓口を一つにしてもらいたい。
- ④「災害に関するお知らせNo.3」の情報が遅かった。
- ⑤自主避難所の物品の配布が遅かった。

(要望)

- ・ みそらこども園から避難所として使っても良いと言われているが、いろんな足かせがあり難しいと言われている。行政が園と覚書を結んでもらえると良い。このことは防災に伝えている。地元も知恵を出しているので、行政も応えてほしい。

(要望)

- ・ 避難所よりも、まず山田の川を広げ、堤防の高さを上げてほしい。

(意見)

- ・ 説明資料の中に被災したときの相談場所を入れて周知した方が良い。